

暑熱対策フォローアップ分科会 活動報告

令和8年3月

一般財団法人日本気象協会

暑熱対策FU分科会 概要・実施体制

テーマ：熱ストレス増大により都市生活で必要となる暑熱対策

大都市・観光地を多く擁す近畿地域は、都市部では気候変動に加えヒートアイランドの影響を強く受けることにより、熱中症搬送者数の増加が地域共通の課題となっている。また、祇園祭等の大規模な祭礼・屋外イベントが毎年夏季に多く行われ、今年度は大阪・関西万博が開催された。

本分科会は、令和4年度に策定された広域アクションプランに基づいて、イベント・観光時に着目し、地域一体で取り組むことで、より一層の効果をあげ、屋外における熱中症発生リスク低減に資する対策の推進及びフォローアップを目的とする。

<アドバイザー> ※敬称略

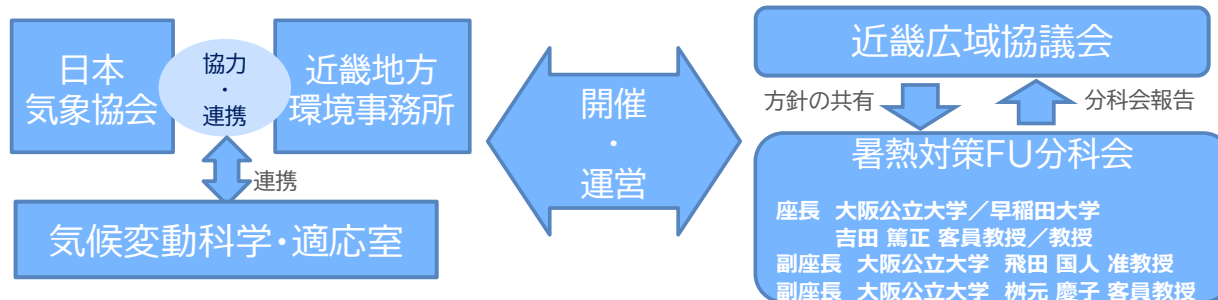
- 座長：大阪公立大学 客員教授／早稲田大学 教授
吉田 篤正
(建築環境、環境技術)
- 副座長：大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 准教授 飛田 国人
(温熱環境、環境生理学)
- 副座長：大阪公立大学大学院 工学研究科 客員教授 柘元 慶子
(ヒートアイランド対策)

<メンバー>

2026年3月現在

種別	メンバー
地方公共団体	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、泉大津市、茨木市、高槻市、富田林市、吹田市、東大阪市
地方支分部局	大阪管区气象台、大阪労働局
研究機関	国立環境研究所、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、兵庫県環境研究センター
地域気候変動適応センター	滋賀県気候変動適応センター、京都気候変動適応センター、おおさか気候変動適応センター、兵庫県気候変動適応センター
地域地球温暖化防止活動推進センター	地球温暖化防止活動推進センター（滋賀県、京都府、大阪府、奈良県）

<実施体制>



暑熱対策FU分科会 令和5～7年度 実施スケジュール

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度
近畿広域協議会	年2回程度開催	分科会の取組の現状・課題等を報告し、専門家等から助言を頂く	
暑熱対策FU分科会	年1～2回程度開催	各実施内容の状況を分科会構成員に共有し、全体の方針や進め方について議論する	
A-PLATでの情報共有	事務局が主導してMLや座談会で自治体ニーズを収集し、国立環境研究所に要望をあげる	その後も必要に応じて適宜要望をあげ、A-PLATをさらに活用する	国の協力を得ながら情報基盤を確実にする
部局横断型研修	事務局主導で情報共有を活性化	モデル自治体でのスモールスタート → 座談会等で要望を取り入れながら徐々に規模を拡大	
ML (メーリングリスト)	暑熱対策の関係者間での手軽な情報交換	令和6年度以降、自治体間でのさらなる活用を見込む	自治体が主体的に活用
座談会	関係部局・関係者間での忌憚のない意見交換や議論 (年1回程度開催)	令和6年度以降、自治体間でのさらなる活用を見込む	
重点プロジェクト① イベント・観光時の暑熱対策	近畿広域日傘キャンペーンの実施方針を確認・調整 日傘普及啓発のチラシひな型やマニュアルを作成	MLでチラシひな型やマニュアルを配布するなど、自治体の取組に役立てる 実施結果を振り返り、さらに効果的な方法を検討する	
重点プロジェクト② イベント・観光時に着目した暑熱対策としての緑化の促進	事務局は自治体の活動をサポート	部局横断型研修・ML・座談会等により、自治体間での緑化の有効事例の共有を推進する ・優良事例を実施した自治体からの話題提供 ・緑化促進の実施手順を取りまとめ、MLで配布する等	

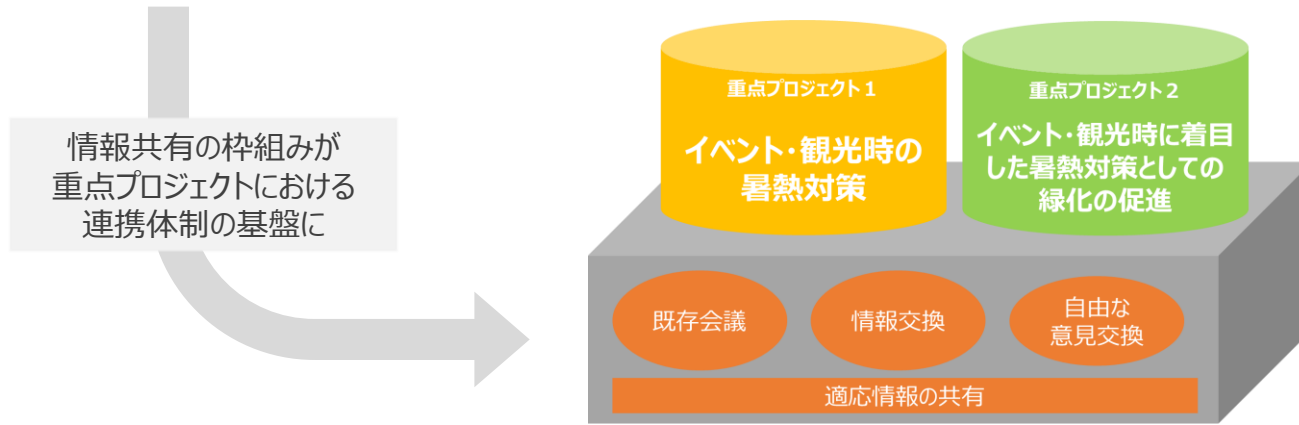
暑熱対策FU分科会 令和7年度 実施スケジュール

項目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
近畿広域協議会					▼ 第14回 10月3日					▼ 第15回 3月12日
暑熱対策FU分科会								▼ 分科会 1月23日		
A-PLATでの 情報共有	A-PLATの既存情報の活用を推進するとともに、暑熱の適応策を具体的に進めるにあたって必要とする情報について自治体からの要望を上げる									
部局横断型研修	研修実施マニュアルの作成・分科会メンバーに展開・最終稿をMLで展開 近畿地方環境事務所HPへの掲載依頼									
ML (メーリングリスト)	暑熱対策関連情報の関係者間での手軽な共有、及び事務局と自治体の双方向の情報交換									
座談会	座談会実施準備（事前アンケートの実施、とりまとめ資料の事前共有 等）						▼ 座談会 12月12日	フィードバックへの対応、次回の実施準備		
重点プロジェクト① イベント・観光時の暑熱対策	・自治体のイベント等で、実際の普及啓発活動事例の手助けとなる取組を実施 ・伝統的祭礼等のイベント主催者団体との情報交換を行うとともに、一般観光客を対象とした暑熱対策を実施					取りまとめ、分科会メンバーの意見をふまえて来年度に向けた取組内容の検討				
重点プロジェクト② イベント・観光時に着目した暑熱対策としての緑化の促進	部局横断型研修・ML・座談会等により、自治体間での緑化の優良事例の共有を推進する									
アドバイザー委員会										▼

暑熱対策FU分科会 概要

令和7年度の主な目標成果物： 自治体職員向け研修開催マニュアルを作成（連携体制の推進の中で実施）

方法	内容
近畿広域協議会	各年度、2回程度開催。暑熱に関する取組の現状、課題等を報告し、専門家等から助言を頂く。
分科会	各年度、2回程度開催。各自治体の適応アクション実施状況を共有し、議論する。
A-PLATでの 情報共有	暑熱関連の適応に必要な自治体のニーズを収集し、とりまとめて国立環境研究所に要望をあげ、より活用を進める。
部局横断型研修	部署間連携の入口となる研修を実施する。曝露・脆弱性に関わる施策を所管している複数部署と共通に受講し、当事者としての認識をつくっていく。
ML（メーリングリスト）	暑熱対策の関係者間での手軽な共有ツールとして、暑熱・熱中症関連の情報、自治体での取組等を共有する。
座談会	各年度、1回程度開催。座談会は、広域会や分科会で十分に議論できないことを忌憚なく意見交換、議論できる場とする。



▲情報共有の枠組みと重点プロジェクト▲

連携体制の推進①：A-PLATでの情報共有

A-PLATの既存情報の活用を推進するとともに、暑熱の適応策を具体的に進めるにあたって必要とする情報について自治体からの要望を上げ、A-PLAT上での情報共有・活用をさらに充実させていく。

◎ メーリングリストによる記事共有

近畿広域暑熱対策メーリングリストにおいて、暑熱関連のA-PLAT記事の概要とリンクが共有された。（2025年7月）

- ・ 「NbS 自然と適応データベース」の掲載
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/institute/nbs/index.html>



◎ 分科会メンバーからのニーズ調査

※ 2025年度のA-PLATの記事

https://adaptation-platform.nies.go.jp/climate_change_adapt/heatstroke/hs-archive.html

- ・ おおさか気候変動適応センター「高齢者および高齢者に関わる方のための暑さ対策セミナー」（6/10）の開催案内
(2025年5月15日)
- ・ おおさか気候変動適応センター「子どもに関わる方のための暑さ対策セミナー」（5/27）の開催案内
(2025年5月15日)

など

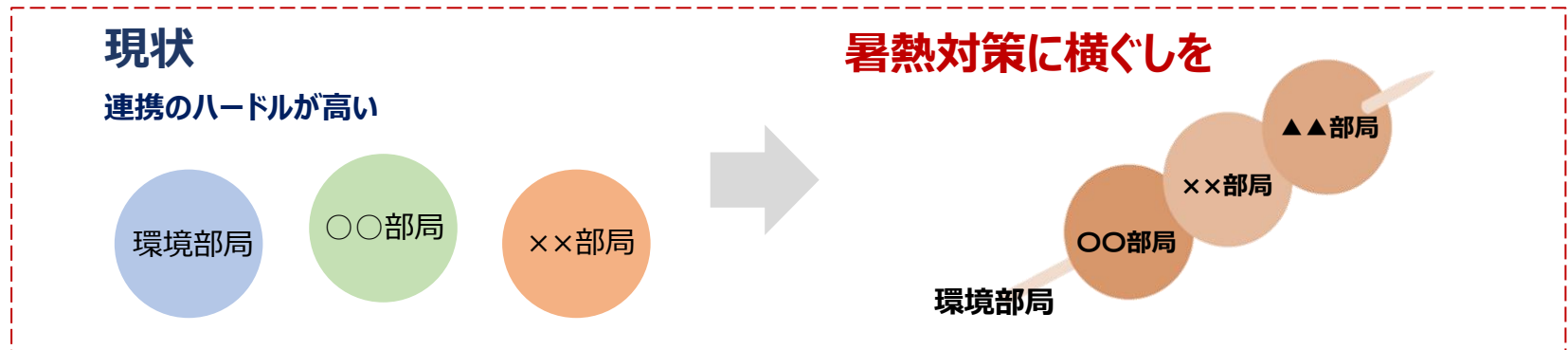
連携体制の推進②：部局横断型研修

暑熱対策を部局間で協働して実施する必要性について共通認識をもつことを目的とし、気候変動適応の基本的知識と曝露・脆弱性対策に関して、関係者（環境部局以外に、曝露・脆弱性対策を実行できる部署等を含む）が共通に受講できる研修を実施する。

研修はワークショップと講義を組み合わせた形式とし、参加者が適応の観点を自部局の施策へ組み込むことの必要性に気づくことで、庁内及び広域での連携体制強化のきっかけとなるよう働きかける。

課題

- ・ 激化する暑熱環境に適応するためには**部局の垣根を越えた連携**が必要だが、気候変動というテーマを普段から取り扱っている部署は限られている。
- ・ 気候変動への「**適応策**」になじみのない部署はさらに多い。



関係者が**部局を越えて**協働する必要性を共通認識として持つことが必要





➡ 部署間連携の入り口として、**部局横断型の研修を実施**

連携体制の推進②：部局横断型研修

今年度の取組

○ **自治体職員向けの部局横断型研修開催マニュアル**の作成

試行実施、モデル自治体での実施結果を元に、準備・運営時に参考となる情報を取りまとめた。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
部局横断型研修	 <p>試行実施</p>	 <p>モデル自治体を対象</p>	
研修実施マニュアル		 <p>骨子の作成</p>	 <p>骨子・マニュアルの作成</p>

連携体制の推進②：部局横断型研修



▲ マニュアルの表紙▲

- 目次 -

I 部局横断型研修とは	
1. 部局横断型研修の目的とメリット	1
2. 部局間連携が求められる事例	2
II 研修プログラム例	
1. プログラムと会場例	4
2. はじめに / アイスブレイク	5
3. 事前講義	5
4. ワークショップ	6
5. 振り返り講義	11
6. 意見交換	11
7. おわりに / アンケート	11
III 運営の流れ	
1. 研修内容の企画	12
2. 受講者の募集	13
3. 受講者への事前インプット	13
4. 準備物・当日作業	14
5. 実施結果の取りまとめ・共有	14
資料編	

▲ マニュアルの目次▲

連携体制の推進②：部局横断型研修

I 部局横断型研修とは

2. 部局間連携が求められる事例

① 災害時の熱中症リスク

台風や線状降水帯等による豪雨に伴う洪水・土砂災害等では、酷暑の中で避難生活を余儀なくされる可能性があり、避難所での熱中症患者の多発等のいわゆる「複合災害」が発生する恐れがあります。また、地球温暖化の進行に伴い、これらの気象災害や酷暑はさらに深刻になると考えられ、これまで以上に自然災害時における熱中症リスクへの注意が求められます。

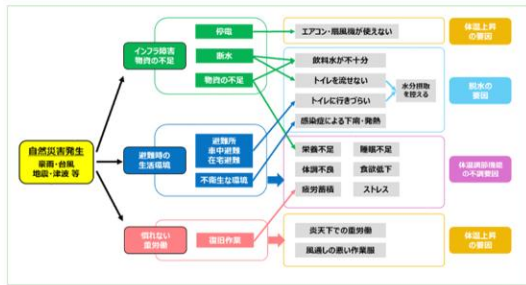
図1-2に示すとおり、自然災害時の熱中症のリスク要因は多岐にわたります。例えば、避難所での熱中症リスク低減のためには、インフラ・物資の他、良好な生活環境の確保^{※1}も重要とされています。また、避難所の中だけでなく、屋外での慣れない重労働（復旧作業など）に伴うリスクにも注意を払う必要があります。

こうした課題への対応や予防には、多角的な視点からの取り組みが不可欠であり、部局間の密接な連携が求められます。

例えば、避難所の温度環境や衛生状態の改善には、健康・福祉部局だけでなく、施設管理を担当する建設部局や、学校施設を避難所として使用する場合は教育委員会との連携が必要です。さらに、準備・予防の観点では、備蓄資材や環境対策を所管する部局も重要な役割を担います。

また、自然災害時以外でも、同様の対応が求められる状況が考えられます。例えば、近年顕在化している上下水道施設の老朽化による断水等が夏季に発生した場合も、図1-2に示すような熱中症リスクが懸念されます。こうした状況においては、建設部局だけでなく、保健、福祉、道路交通関連の部局が連携し、暑熱、衛生、移動等に関する対策を講じる必要があります。

※1「避難所における生活環境の確保に向けた取組事例集」（内閣府）



▲図1-2 災害時の熱中症のリスク要因▲

（「熱中症環境保健マニュアル2022」（環境省）P.66 図3-23 を参考に作成）

研修プログラム例

4. ワークショップ [80分程度]

□ ワークショップの内容例

ここでは、運営側が事前に設定した気象状況や社会状況等から考えられる影響や対策を、グループで検討するケーススタディを行います。

STEP.1 【気候変動影響に関する動画の視聴】

STEP.2 【ケーススタディ：状況設定の発表】
ケーススタディを行う状況設定（暑熱環境・社会状況等）を説明

STEP.3 【ケーススタディ：影響想定】
仮定した状況下でどのような問題が発生するか想像し、付箋および模造紙に記載
話し合い（15分） → 発表（各グループ4分ずつ）

STEP.4 【ケーススタディ：対策検討】
STEP.3で想定した問題への対策を追究
話し合い（15分） → 発表（各グループ4分ずつ）

STEP.5 【ケーススタディ：自治体としての対策検討】
STEP.4で想定した対策について、自治体の実施・サポートできることを追究
話し合い（15分） → 発表（各グループ4分ずつ）

STEP1, STEP2：全体でのワーク
STEP3～STEP5：グループワーク

□ 進行例

- A. 一つの状況設定に対して、STEP2～5を行う。
➢より多角的に影響・対策が検討できる。研修時間をコンパクトに。
- B. 設定を複数用意して、STEP2～5を設定の数だけ繰り返す。
例）1ターン目：災害発生時 → 2ターン目：野外大型イベント実施時 など
➢より具体的に影響・対策が検討できる。

※フローチャート中のカッコ内の時間は進行、進行例Aを2グループで実施した場合の目安時間

運営の流れ

STEP 4 準備物・当日作業

準備物

- 研修資料 (参加者人数分)
- ワークショップ用資材 (チーム数分)
- 付箋 (3色)、ペン (2色)、模造紙 (ワークショップの回数分)
- 講師及び司会用PC、マイク
- ビデオカメラ、録音機材 ※研修の記録をする場合

当日作業

● 会場設置

- 講師、司会、受講者等の座席の準備
- 事前に受講者のグループ分け ⇒ 座席表を会場内に掲示
- 資料、ワークショップ用資材の配布
- 講師や司会が使用するPCやマイク等の準備・接続確認
- 研修記録用の機材の準備 ※研修の記録をする場合

● 開催中

- プログラムのタイムキープ
- 講師、司会、受講者等の補助
- アンケートの回収

など

STEP 5 実施結果のとりまとめ・共有

研修の議事詳細、ワークショップで検討した内容、研修後アンケート等は、可能な範囲で取りまとめ、次回以降の参考になるように集計します。
また、さらなる部局間連携や自治体間での広域連携に繋がるため、以下のようにより、実施結果を共有します。

- 自治体内での共有
※参加者がいなかった部局にも共有
- 他の自治体や地域適応センターへの共有
- A-PLATや気候変動適応近畿広域協議会にて、部局横断型研修の事例として紹介

連携体制の推進③：ML（メーリングリスト）

近畿地域の暑熱対策関係者間で普段から広域連携を行い、近畿地域一体となって脆弱性対策や曝露対策に取り組むため、暑熱対策の関係者間で手軽な共有を行うための日常的な手段としてML（メーリングリスト）を活用する。暑熱関連のマスコミ記事やメンバーの取組の紹介など有用な情報を共有する。また、自治体に対するアンケートや意見募集など、事務局と自治体の双方向の情報交換に利用する。

◎ メーリングリストの運営

令和5年度に構築したメーリングリストを継続運用。

令和8年3月現在で54のアドレスが登録されており、今年度は17件の投稿があった（事務局発信のものを含む）。

○登録者の属性

- | | | |
|---|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・府県の暑熱対策関連部署 ・研究機関（大学、国立環境研究所など） ・地域地球温暖化防止活動推進センター | <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の暑熱対策関連部署 ・地域気候変動適応センター ・事務局（環境省、当協会） | など |
|---|---|----|

○令和7年度の投稿内容（抜粋）

- ・「熱中症環境保健マニュアル ～総論～（2025年7月版）」の先行公開
- ・大雨に伴う被災住民等の熱中症対策に関する情報共有
- ・大阪HITEC解散記念シンポジウムの開催案内
- ・熱中症特別警戒情報等に関するワーキング・グループの開催案内



連携体制の推進④：座談会

関係部局や関係者間で忌憚のない意見交換や議論ができる場として座談会を開催し、府県、市町村、地域気候変動適応センター等の横のつながりを深め、各機関での暑熱対策への取組状況や現在抱えている課題、問題解決の手助けになったことなどをざくばらんに話す機会を設ける。

◎ 座談会の開催

- 参加者同士の情報交流を目的とし、意見交換を実施。
意見交換の内容として、事前アンケートを実施し、結果を資料に取りまとめて示すことで議論の活性化を図った。
- 自治体同士で取組状況や課題を共有することができ、他の自治体での事例から、課題を解決するためのヒントとなる情報が得られる場面もあった。

○開催日時

2025年12月12日(金) 15:30～17:00（オンライン開催）

○意見交換の内容

- 暑熱対策の取組状況・今後の予定
- クーリングシェルターの登録（実施状況、苦労した点など）
- 暑熱対策の連携について（自治体間の連携の状況・課題など）
- 暑熱対策を行う際の課題や要望



重点プロジェクト①：イベント・観光時の暑熱対策

伝統的祭礼等における暑熱対策の検討へのサポートとなるよう情報交換等を行い、さらに効果的な暑熱対策の検討に役立てていただく。また、夏季の大型イベント等での暑熱対策などについてヒアリングを行い、情報を共有する。

◎ 大型イベントでの暑熱対策などについてヒアリング

■ **祇園祭**の暑熱対策に関するヒアリング（8月）

2022年より継続実施しているヒアリングを今年度も実施し、暑熱対策の取組状況や、認識している課題等についてお話を伺った。

ご協力いただいた団体：**祇園祭山鉾連合会**

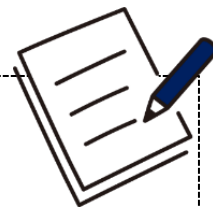
■ **大阪・関西万博**の暑熱対策に関するヒアリング（12月）

2025年4月13日から10月13日まで開催された大阪・関西万博で実施された熱中症対策についてお話を伺った。また、効果を感じた取組や対応策についてもお聞きした。

ご協力いただいた団体：**公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会**
(運営基盤調整統括室、危機管理局)

重点プロジェクト①：イベント・観光時の暑熱対策

祇園祭：ヒアリング内容抜粋



● 今年の状況

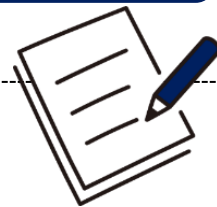
- 来場者は14～17日の累計で54.5万人、21日～24日の累計で7.8万人と伺っている。平日開催だったことや暑さなどの影響で、去年よりは少なく感じた。
- 前祭（7月17日）は雨が降ったため、それほど暑さは感じなかった。後祭（7月24日）は暑かった。曳き手は道路の中心付近にいるため風の恩恵を受けやすかった。
路肩・歩道は風が弱くなるため、観光客の方はスタッフよりも暑さを感じたかもしれない。
- 熱中症による救急搬送者がいたという報告は受けていない。後祭の際に、救護所に運ばれた人はいた。（昨年は、救急搬送者が観光客の中から9名、スタッフの中から1名発生）
- **外国人観光客は、想定していたよりは少なかった。**

● 実施している暑熱対策（青文字：今年度初めて実施したもの）

- 昨年と同様、各山鉾にAEDを積んで巡行した。いざという時にAEDを使用できるかは不安であるが、会場周辺にはかなりの数の消防関係者が配置されており、観光客も含め、周囲に呼び掛ければ誰かは使用できると考えている。以前は、消防署に依頼してスタッフ向けにAEDの使用講習を実施したこともあった。
- 主催者の記者会見において、**高齢者や体調に不安のある方は来場を控えるよう呼びかけた。年々、暑さ対策に重きをおいてアナウンスするようになってきた。**
- 大塚製薬による熱中症予防指導会を2回実施した。
- 前祭では、近隣の企業や学校、山鉾連合会による**給水所を4か所用意した。**
- **熱中症対策のためだけのものではないが、何かトラブルがあった時のための連絡網を定めた。**

重点プロジェクト①：イベント・観光時の暑熱対策

祇園祭：ヒアリング内容抜粋



●特に効果を感じた対策

●**見栄えより安全対策を重要視し、制約を緩くしたこと**だと考える。

昨年度から、巡行するスタッフや随行する警察も、電話や飲み物、扇子を携帯して良いことにした。また、八坂神社との共同記者会見などで、暑さ対策を強くアピールした。

<補足（令和6年度のヒアリングより）>

禁止していたわけではないが、ペットボトル飲料の携帯と、路上での水分補給について

「見せない努力をしなくてもよい」ことを、昨年度から周知した。

一昨年からは、近年巡行の時間を短縮するため、ある地点を通過した段階で先頭の長刀鉾（なぎなたぼこ）を追い抜いてよいこととした（伝統的に追い抜いてはならないこととなっていた）。

●認識している課題

●**夏の暑さ問題は年々深刻化しているが、伝統的なものであるため、実施時期等を変更することは現状は難しい**と考えている。また、何かを変更する際は、警察とのやり取りを含め、数年の検討と準備をする必要がある。

●運営側の暑熱対策はある程度できてきたと考えており、**観光客向けのさらなる暑熱対策が必要**であると考える。

●特に、**ミスト**や屋根（テント）などの設置は検討したいが、**山鉾が湿気を嫌うため、適切な手段を模索中**

重点プロジェクト①：イベント・観光時の暑熱対策

万博：ヒアリング内容抜粋

●実施した熱中症対策・効果を感じた熱中症対策

- ・開催前に定めた方針に従い、給水スポット、日よけ用パラソル、スポットクーラーの設置等を進めた。
- ・**Web等を通じたアナウンスにも力を入れ**、HP「今週の万博」や来場前メール等を通じた暑さ情報の提供を行った。

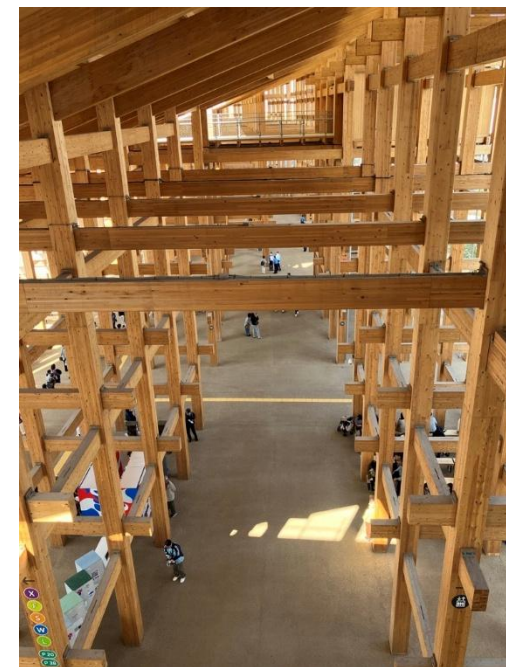
- ・**大屋根リングの下は、動線としても休憩場所としても有効活用してもらっていた**と感じる。

また、リング下にもグッズ等の販売所を設置し、そこでもクールネック等の暑さ対策グッズを販売していた。

- ・給水スポットも行列ができるような状態で、よく活用いただいたと感じた。なお、その状況を踏まえて増設対応を行った。

- ・熱中症対策としては、水分・塩分補給や日差しを避けることの他に、**体をしっかり冷やして、涼しい場所で休憩することが重要であると改めて感じた。**

会場の特性上、空調の効いた広い場所を追加設置することは難しかったが、大阪メトロ・ヒュンダイから提供していただいたEVバス（計2台）や、催し物が無い時のイベントホール等を休憩所として来場者に利用いただいた。



▲ 会場内大屋根リング下 ▲
(弊協会職員撮影)

重点プロジェクト①：イベント・観光時の暑熱対策

万博：ヒアリング内容抜粋



●スタッフ向けの熱中症対策

- **ノベルティ（冷感おしぼり）**の配布、電源が取れるところでは**スポットエアコンの設置**などを行った。
- 熱中症対策等のポイントや事例をとりまとめて周知した。
また、労働基準監督署によるセミナーを実施し、その資料を関係者に共有した。
- 暑さ指数（WBGT）が28（厳重警戒）を超えると予測されている場合等は、毎朝昼に実施するスタッフミーティングで注意喚起を行っていた。

●利用したデータ等

- **大阪HITECによる事前シミュレーションの結果**を元に、竹パーゴラ等の整備を行った。
- 国の万博アクションプラン（文科省）の防災DXにより、**50mメッシュ（個人情報保護の観点から、5段階での表示）**での滞在状況等を取得していたが、データ送信のタイムラグやリング上・下等の階層での区分は出来ない。
- 一般来場者の入退場ゲートに**AIカメラ**も導入したが、関係者がカメラに写り込んだ場合等におけるAIの解析精度の課題もあった。
リアルタイムで具体的なデータが取得出来ればそれなりの効果は期待出来たかも知れないが、現状としては、今後の技術革新等に期待する。

重点プロジェクト①：イベント・観光時の暑熱対策

万博：ヒアリング内容抜粋



●海外からの来場者向けの工夫

- ・エントランス前・会場内では暑熱対策情報を英語でも放送するとともに、熱中症警戒アラートが発生された際のアナウンスやVisitorsアプリ上の情報について、英語でも併記する等の工夫を行った。
なお、**海外からの来場者は想定より少なかった印象**である。

●熱中症患者の対応状況（救急体制や熱中症患者数）

- ・**医師が常駐する診療所3ヶ所のほか、看護師対応に特化した応急手当所5ヶ所設置**、傷病者の通報場所から会場内の医療救護施設への搬送手段は、軽EV救急車や医療用救護カート等を用意していた。
※詳細は「医療救護対策実施計画」 <https://www.expo2025.or.jp/news/news-20241129-02/>
- ・熱中症を始めとする体調不良者の発生場所等は危機管理センターに配備したシステムを用いて把握していた。また、日々の体調不良者の統計データを注視し、その発生状況を踏まえて、医療人材の増員や経口補水液といった暑さ対策の物品の調達数の調整など柔軟に対応を行った。
なお、熱中症患者を含む体調不良者の発生が多い場所や時間帯は、**WBGTや日当たりに加えて人の密集度にも大きく左右され、発生する時間帯も1ヶ月単位で大きく傾向が異なっていた。**

重点プロジェクト①：イベント・観光時の暑熱対策

万博：ヒアリング内容抜粋

●熱中症患者への対応状況（救急体制や熱中症患者数）

- 熱中症患者数は現在のところ非公開だが、ゆくゆくは公開できるように調整している。
なお、この熱中症患者数は、**会場内診療所の医師が「熱中症（疑いを含む）」と診断した人数**であって、会場内で発生した体調不良者の大多数を占める、少し休憩して体調が改善したような事案の人数は含まれていない。



会期中の熱中症患者数（速報値）が、博覧会協会HPにて公開（2025年12月24日）
<https://www.expo2025.or.jp/news/news-20251224-02/>

- 会場内8か所の医療救護施設において**24,366人**（1日平均132人）の傷病者に対応（場外搬送673名）
- 熱中症疑いと医師の診断を受けた方は**732名**、うち場外に搬送された方は88名

（博覧会協会臨時理事会資料（2025年12月24日）より引用）

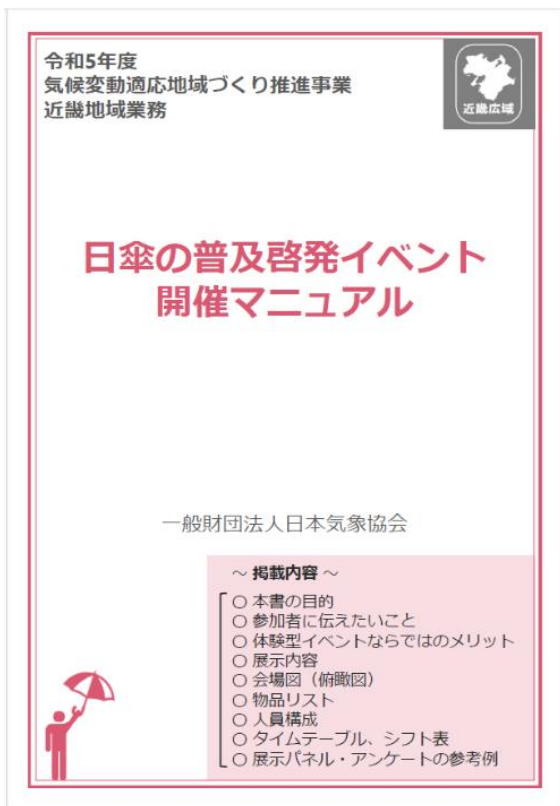
<補足>

愛知万博：2005年3月25日～9月25日（185日間）、入場者数 約22,050,000人
公式熱中症患者数：313件 http://www.expo2005.or.jp/jpn/about/post/post_b/post_b7.html

重点プロジェクト①：イベント・観光時の暑熱対策

◎ 日傘の普及啓発に関する動向把握

- ・令和5年度活動で作成したチラシ、マニュアルを再度周知 https://kinki.env.go.jp/page_00080.html -
- ・座談会や分科会で各自治体の日傘の普及啓発に関する取組状況を調査



✓ 展示内容
 ※あくまで一例のため、実情に応じて各項目の簡略化/増強・省略/追加を実施してください。

STEP 1 受付・サーモカメラ画像確認

○スタッフの対応内容
 ・(感染症対策を講じる場合) 手指消毒を実施してもらう
 ・サーモカメラ画像で参加者の頭の熱さを知ってもらう
 ・日傘を渡す

○狙い
 ・日傘をささないときの熱さを色と数値で確認してもらう

STEP 2 日傘体験

○スタッフの対応内容
 ・日向に出て、日傘(ラミネート加工あり¹⁾、白色²⁾をさしてもらう
¹既存研究の結果から、ラミネート加工ありのほうが暑熱環境緩和効果が高いことが示されている。
²黒色と白色(共にラミネート加工あり)の日傘の比較では、白色のほうがさらに上記緩和効果が高い。

○狙い
 ・日傘をさすことによる暑さの低減効果を実感してもらう

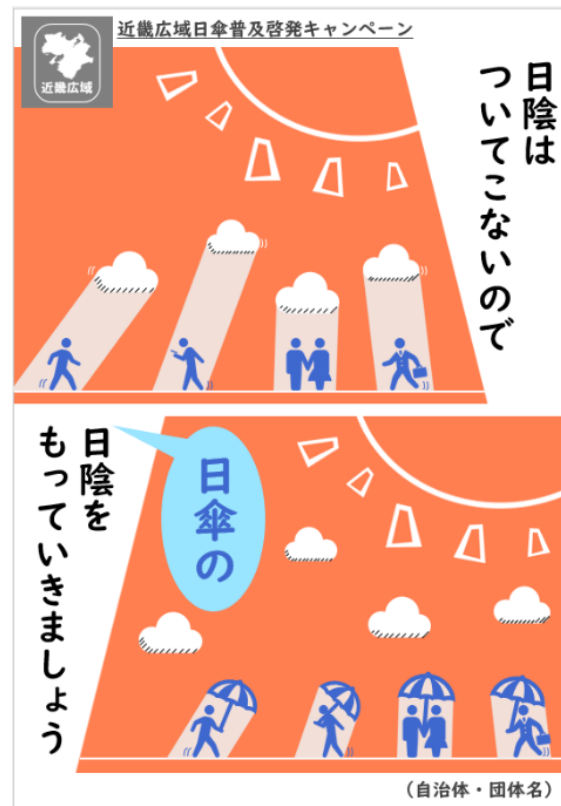
STEP 3 シールアンケート

○スタッフの対応内容
 ・STEP 2の体験で日傘の暑さ低減効果を感じたか、下記①～③の3択で尋ね、アンケートパネル(右図; A0サイズ)の該当欄にシールを貼ってもらう
 ①すごく感じた
 ②少し感じた
 ③感じなかった

○狙い
 ・本イベントの広報の際に有用な効果を実感した参加者の数/割合をデータとして集計する

日傘の効果を感じましたか?
 すごく感じた
 少し感じた
 感じなかった

次頁へつづく

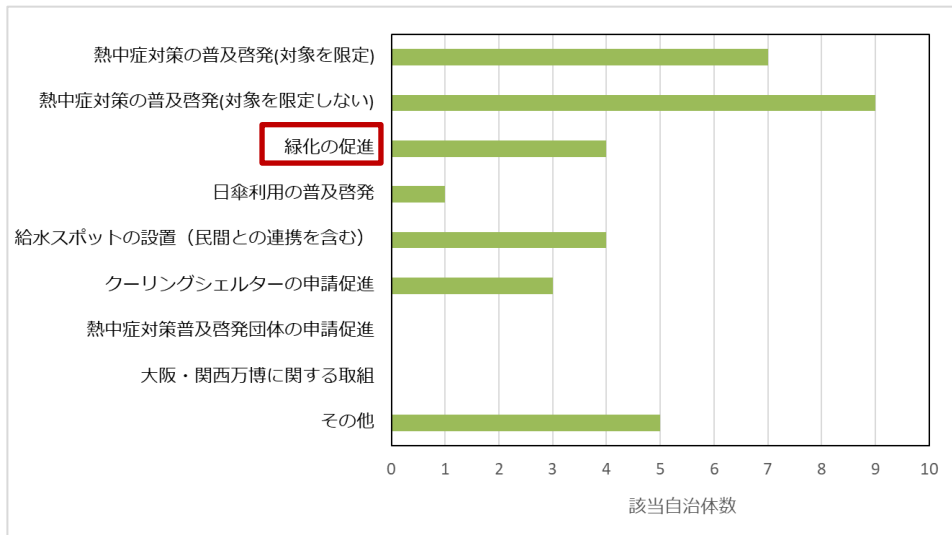


▲日傘普及啓発イベント開催マニュアル／日傘普及啓発用チラシ▲

重点プロジェクト②：イベント・観光時に着目した暑熱対策としての緑化の促進

イベント・観光時に着目した暑熱対策としての緑化の促進として、各自治体における緑化の促進に向けた活動のサポートとなる情報共有を行う。

◎ 緑化に関する分科会メンバーへの調査



▲ 自治体が今夏に実施した暑熱対策の取組▲
(令和7年度暑熱座談会)

例)

神戸市「こうべ木陰プロジェクト」

六甲山の木を市街地に植樹する取組。
年間約10本を植樹しており、
今後も継続し、エリアを拡大する予定。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a51321/kuurashi/machizukuri/park/oshirase/kokage.html>

